

こんにゃくへの支出

- 家計調査（二人以上の世帯）結果より -



今年の12月22日は、^{にじゅうしせつき}二十四節気¹のひとつである「冬至」です。

一般的に冬至の日は、かぼちゃを食べたり、ゆず湯に入る風習があることが知られていますが、体にたまった砂を体外に出すという「砂おろし」として、「こんにゃく」を食べる習慣もあります。

そこで、今月は「こんにゃく」への支出について、家計調査の二人以上の世帯の結果から見てみましょう。

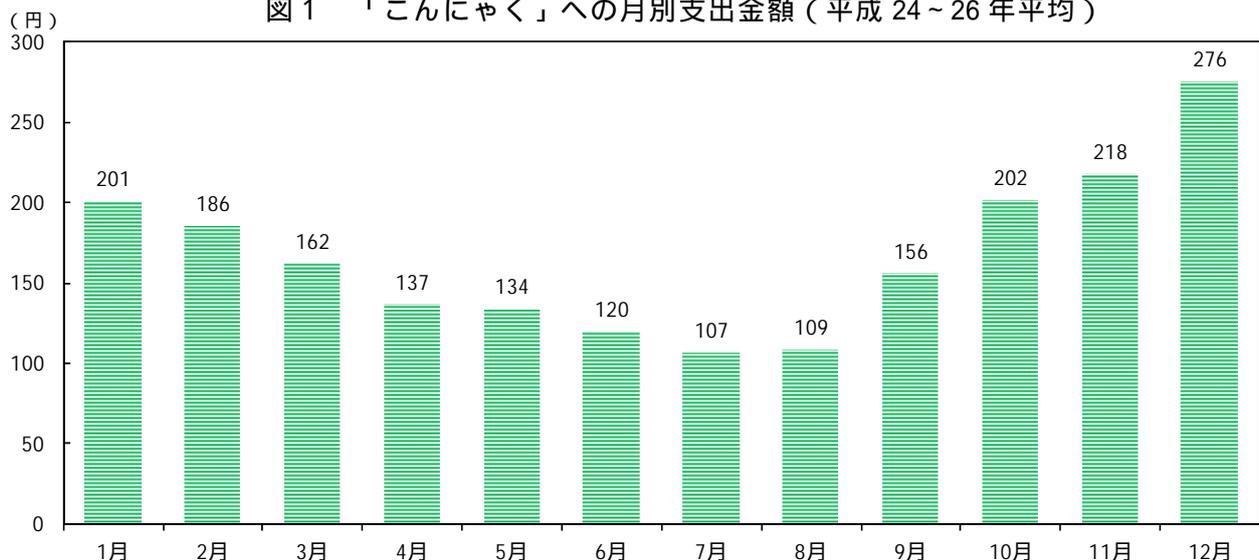
- 1 二十四節気には、冬至のほか、立春、大暑、立秋などがあります。

「こんにゃく」への支出は12月が最も多い

「こんにゃく」²への支出について1年間を通して見ると、12月が最も多くなっています（図1）。原料である「こんにゃく芋」は、10～11月頃に収穫期を迎え、更には、12月におでんや鍋物を食べることも多く、食卓に「こんにゃく」が登場する機会が増えていると考えられます。

- 2 「こんにゃく」には、「しらたき」や「糸こんにゃく」も含まれます。

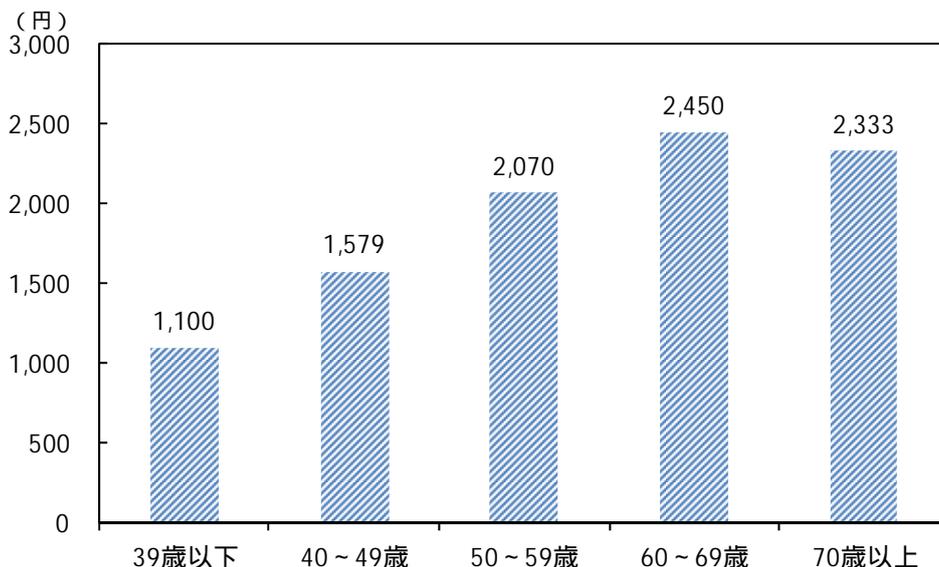
図1 「こんにゃく」への月別支出金額（平成24～26年平均）



「こんにゃく」への支出が多いのは世帯主の年齢が60～69歳の世帯

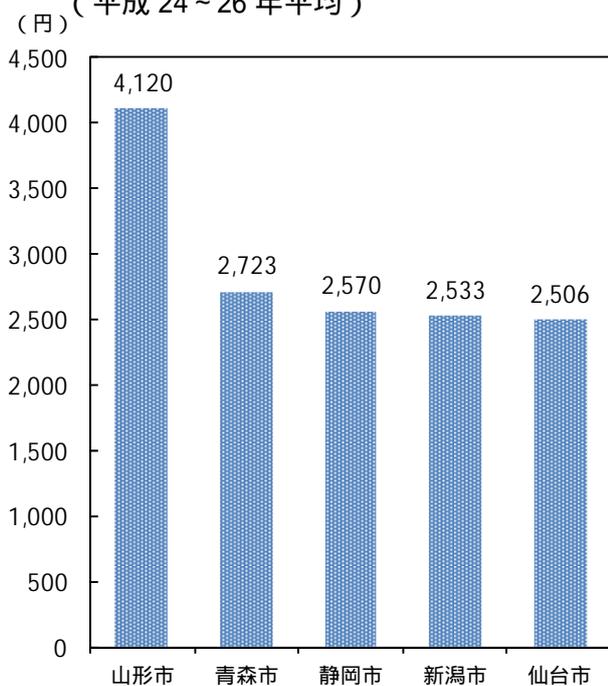
「こんにゃく」の1世帯当たりの年間支出金額を世帯主の年齢階級ごとに見ると、世帯主の年齢が39歳以下の世帯が1,100円と最も少なく、60～69歳の世帯が2,450円と最も多くなっています。また、世帯主が60～69歳の世帯は、39歳以下の世帯と比べ2倍以上も支出していることがわかります(図2)。

図2 「こんにゃく」への世帯主の年齢階級別年間支出金額(平成24～26年平均)



郷土料理の「玉こんにゃく」が有名な山形市の支出が最も多い

図3 都道府県庁所在市ランキング上位5都市(平成24～26年平均)



(参考) 全国平均(平成24～26年平均): 2,008円

「こんにゃく」への年間支出金額を都道府県庁所在市ごとに見ると、山形市が最も多く、第2位の青森市と比べ1.5倍以上も支出していることがわかります。また、同じ東北地方にある仙台市も上位5都市の中に入っています(図3)。

山形県では郷土料理として「玉こんにゃく」が有名で、家庭の食卓のみならず、お祭りや学園祭等の催しの際にもよく見かけられるようです。

また、山形県を含む東北地方で有名な「芋煮会」では、「こんにゃく」が芋煮の具材の一つとして利用されています。

